

「バプテスマを受けて」

1. はじめに

- ・クリスチャンユダヤ主義者への弁明とガラテヤの兄弟姉妹へ
- ・律法と福音の違い
- ・洗礼を受けた者の具体的、社会的意味は。

2. 本文

- ・(15 ~ 26節) 律法と福音の違い
  - ・キリストが来られるまで、違反を示すため与えられた。(19節)
  - ・律法はキリストに導くための養育係。(24節) 罪の意識
  - ・信仰が現れた以上、私たちはもはや養育係の下にいません。(25節)
- ・(27節) **バプテスマを受けてキリストにつく者**とされたあなたがたはみな、**キリストをその身に着た**のです。
  - ・バプテスマを受けてキリストにつく者=キリストをその身に着た
    - ・**信仰により、キリスト・イエスに結ばれて(26節) 新共同訳**—キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子供です。(新改訳)・神の子となる(26節、4:5~7節 新共同訳)
    - ・新しく創造される(6:15節 新共同訳)
    - \*信仰でも聖霊のバプテスマを受けた者が前提。一初代教会では特異なことではなかった。
- ・(28節) ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。
  - \*洗礼とは何か。
    - ・歴史的には(律法ではなく慣習として)
      - ① 異邦人がユダヤ教に改宗した時。
      - ② 悔い改めのバプテスマ。
    - ・解釈のしかた
      - ① 象徴的解釈(ツヴィングリ)—神学的、哲学的解釈、
        - ・内面的体験を表すこと(告白)
      - ② パウロの説明(儀式としての洗礼の具体的、社会的意味)
        - ・キリストにあって、一つだからです、という平等観は①は結びつかない。
        - ・あらゆる種類の人々を一つにまとめ上げることによって創造される新しい社会(教会共同体)であり、それに参画すべきとした。

3. おわりに

- ・神の愛と恵み(信じる者の恵み)
  - ・キリストにつく者とされた(27節)
  - ・人と人との壁、国と国との壁を超える力が与えられる(28節)
  - ・約束の相続人なのです。(29節)